

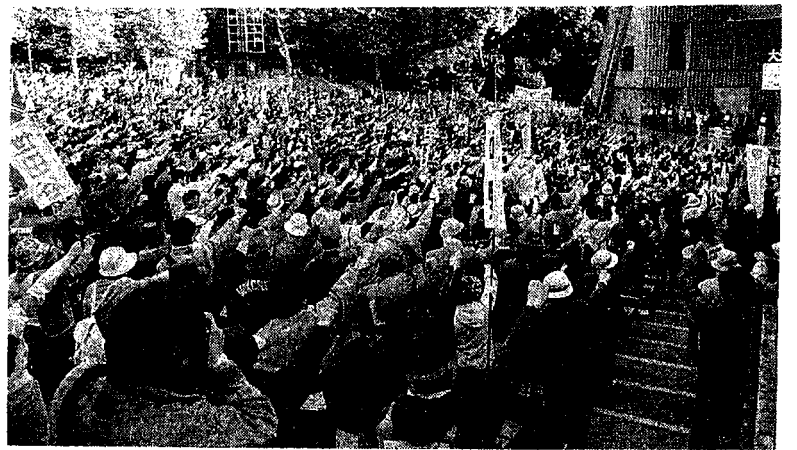
日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

95.11.7 No.4289

115名参加者総決起集会大成功



やっせぞ!! 115名の大結集!

よみがえれ労働組合! とりもどせ労働者の団結! いまこそ反撃にたちあがろう!
闘う労働運動の新しい潮流をつくろう!

大失業時代を撃つ、一一・五全国労働者総決起集会は、北は北海道、南は九州・沖縄から日比谷野音をうめつくす三〇八〇名の労働者の大結集で大成功をかちとりました。

長期不況・リストラ・賃下げ、社会党の転向、連合の屈服という労働運動にたちこめる暗雲を吹き飛ばして、久しぶりにいきいきと労働者が主人公になって、明るく元気にたたかいたとられた集会でした。



〈特別報告おこなう被災地の仲間〉



〈郵労千葉も、100名をこえる隊列で参加 - やる気も本気も示す〉

被災地・沖縄から檄

われわれも、呼び掛け団体として一〇〇名をこえる組合員が参加し、全国の闘う仲間たちに動労千葉のやる気と本気を示しました。
「全国にはばたこう」を合言葉に、動労千葉が呼び掛けた新しい潮流運動が一一・五集会の大成功・大勝利を突破口に、昨日三千が五千、一万一十万と、日本の労働運動をかえていく大きな展望を切り拓きました。

動労水戸の辻川委員長の開会挨拶で始まった集会是、佐藤芳夫元中立労連議長、葉山岳夫弁護士、米兵の少女暴行事件弾劾! 安保粉砕・基地撤去! 一〇・二一国際反戦デーに八万

勝利の道示す

中野委員長基調

五千人の県民総決起をかちとり熱く燃える沖縄現地の闘いを沖縄上京団が、正念場を迎えた国鉄闘争を動労千葉田中書記長が、分割・民営化一〇年間の攻防に決着をつけるその第一歩として一二月ダイ改阻止のストライキ闘争に決起すると発言、続いて被災地神戸から大挙結集した仲間たちが全員登壇し、団結することの大切さ、仲間を守り抜くことの尊さが話され、生きるために必死で闘う命の叫びに、集会参加者一同共に闘うことを深く決意しました。

そして、被災支援連アピールを中島誠さんがおこないました。

基調報告に立った、わが動労千葉中野委員長は、大失業時代は、同時に戦争の時代であり、なりふりかまわずすべての犠牲を労働者に転嫁する帝国主義の攻撃に、労働者が日本のみならず世界的に団結すること、本年一九九五年を、新たな時代の幕開けとして、今日の日比谷から日本全土を席卷する決意をもつて、労働者を中心とする闘いの大きなうねりをつくりだそうと、三つの方針を提起しました。まず第一点、国鉄闘争から連合路線と対決すること。第二点は、被災地労働者の闘いを守り支え抜いていくことが大失業時代と闘うという実践そのものであること。

(ウラハ)

十一・五アピール

そして第三点目は、沖繩の怒りを本土の労働者が共有し、六〇年、七〇年がそうであったように、われわれ新たな潮流こそが第三次安保・沖繩闘争の大爆発をつくりだすこと。

一一・一六APEC粉砕闘争から、一一・一九日米首脳会談粉砕闘争を全国闘争として闘うこと。

国鉄、被災地、沖繩の闘いを水路にしながら、三つを一本にして、情熱とエネルギー、本気になつて大失業と戦争の時代を闘う労働運動をつくりだす勝利の道すじをさし示しました。

くさばん、 国鉄決戦へ!!

闘う労働運動の先頭にたつ労働組合・労働現場からの決意表明をうけ、一一・五アピールを発し(裏面掲載)、首都東京を貫く大デモンストレーションを貫徹しました。

一一・五集会の大成功を力に大失業・戦争と対決する全国からわきおこる闘いと結合して、勝浦決戦・一二月ダイ改阻止闘争に総決起し、われわれ動労千葉が国鉄労働運動の主流派として登場し、JR当局・JR総連革マル一体となつた反動労政打倒、一〇年目をめぐる国鉄闘争の勝利を切り開こう。

私たちは、今日一九九五年十一月五日、大不況と大失業の嵐に抗し、全国の職場・地域に充滿する労働者の怒りを結集して、ここ東京・日比谷野外音楽堂において、全国労働者総決起集会を開きました。

闘いの最前線・沖繩から、被災地・阪神から、多くの仲間が参加し、感動的な訴えが寄せられました。国鉄闘争の重要性はいよいよ明らかとなり、その他多くの職場で新たな闘いも報告されました。ここに労働運動の新しい夜明けを切り開く力があり、階級闘争の新しい発展の時代にむけた力強い胎動があります。いまこそ闘う労働組合の再生が、闘う労働運動の新たな潮流の登場が求められています。

第二次世界大戦の終了から半世紀を経て、時代は大きく、そして激しく動いています。戦後長く続いた経済的繁栄は終わり、日本の政治・経済・社会は深刻な危機に陥っています。この背後には米ソを軸とした戦後世界体制の崩壊があり、日米対立をはじめとする新たな列強間抗争の激化があります。資本家階級は、この国際的生き残り競争に勝ちぬくために、一方ではアジアへの侵略に突進し、他方では全ての犠牲を労働者に転嫁しています。だがそこにあるのは資本主義の絶望的あがき、無政府的な衝動だけです。彼らはこの絶体絶命の危機の中にどんな出口も見いだすことができません。この行き着く先は、半世紀前の歴史の再現であり、新たな侵略戦争の危機です。

日経連はそのプロジェクト報告において、大失業と戦争の時代に資本主義が生き延びるためには、これまでの賃金制度や雇用制度を解体し、労働者の生活と権利を破壊する以外にないことを打ち出しました。これは資本主義の自己破壊宣言です。しかも連合はこの資本の攻撃に率先協力の姿勢をとっています。今日、自らの延命のために労働者を虫けらのように街頭に放り出しつつある彼らは、明日は、同じように労働者を虫けらのように職場に駆り立てるでしょう。労働者が、自分と家族の生活を守り、その未来を切り開くためには、ただ団結して、闘う以外にない、闘って、真の「社会の主人公」として、資本家階級にとって代わる以外にない——このことがいよいよよどんなあいまいさまなしに問われる時代がやってきました。

ソ連が崩壊し、五五年体制が崩壊し、総評に続いて社会党も朽ち果てる中で、日本階級闘争の危機はいよいよ深刻化しています。だが同時にその最深处では、このような現状を根底から突破する巨大な階級闘争のマグマが地鳴りをあげて高まりつつあります。日本でもそれは激しく噴出しはじめました。ソ連崩壊後の沖繩基地・日米安保、いわゆる「安保再定義」の策動を告発する沖繩の闘いこそ、「戦後五〇年」を画する日本階級闘争の新たな時代の到来を告げ知らせるものです。

階級闘争、労働運動を、その原点から、土台から、本格的に立て直すときがきました。労働者階級こそ、今日の未曾有の世界危機を突破する力をもつ唯一の階級です。いまこそ労働者はその団結をとりもどし、労働組合をよみがえらせ、資本・権力との激しい闘いを通して、真の、生き生きとした労働者国際主義を復権させなくてはなりません。この闘いの成否に、世界の明日の運命がかかっています。

日本の労働者は、激しい資本の攻勢と連合の反動的職場支配の下でも、その階級的魂を守り、階級的エネルギーを蓄積してきました。その先頭に、分割・民営化攻撃以来八年をこえる国鉄労働者の不屈の闘いがあり、阪神大震災の焼け跡から力強く立ち上がった被災地労働者の闘いがあります。そしていま日米両国政府を揺るがす沖繩の仲間たちの爆発的決起があります。問われているのは、連合路線を打ち破り、総評労働運動をのりこえる新たな戦線的労働運動の路線の確立であり、潮流の形成です。

私たちは、本日の集会の成功をもって、この全ての労働者の共同の歴史的事業にむかって大きな歩みを開始しました。全国の職場・地域で闘う多くの仲間がひとりでも多くこの闘いに結集されることを訴えます。

よみがえれ労働組合！ とりもどせ労働者の団結！
闘う労働運動の新しい潮流をつくらう！

一九九五年十一月五日

大失業時代を撃つ十一・五全国労働者総決起集会参加者一同